

18
18歳未満閲覧購入不可
FOR ADULT ONLY

acofree.net
HEXIVISION



幻想郷
ベビーズム

★ 経典コマンドステイクAPPEND ★

もしも妊婦になつた聖白蓮がすごく
あなたを欲しがつてしまつたら…
♡





旦那様との幸せな生活を送っていたある日のこと

ええっ!?

しほちゃん、お預けなんでしょうか?



トモちゃん、お預けはいい

お預けはいいんですけど、エッチな話のときは



さすがに旦那様も、さすがに旦那様も

エッチな話のときは、エッチな話のときは



旦那様も旦那様の準備をいたしてあげて、今夜は「妊婦のついで」の準備をいたしてあげて

旦那様も旦那様の準備をいたしてあげて



まさか私に、まさか私に

ガーン



その心配は、その心配は

よかったー

はい



確かに私は、確かに私は

妊婦のついで、妊婦のついで

私に旦那様も、私に旦那様も



…うしたらもてて
いただけませんか

もうエッチする準備
できていますから…

おねがい♡

回数を増や
す♡

はぁ♡

びらっあ♡

回数を増やせば
回数を増やせば



まったくおねだり
上手だな白蓮は

あん♡

はっ♡

しゅっ…♡

はっ♡…回数を増やせば
回数を増やせば



そんな「オシ」
しただけなのに

ビキッ♡

!!

そんな顔じゃなくていいぞ
昏めるつもりはないんだ

むしろオシも拜
みさうになんだ

おねがい♡

ビキッ♡



大好き♡

んんん♡

ぎゅっ♡

魔法を守って下さるからごんな
楽しいエッチもいっぱいあります



ひい♡

ぬぽっ♡

思いやりしちゃうだけで
赤ちゃんは大丈夫なのっ

ミルク♡
ミルク♡



ぽっ♡
ぽっ♡

んん♡

でゅっ♡

旦那様と愛でてあげてくっ
二つにならぬように頑張ります

むにゅん♡

このあと何層も求められ愛の
営みは明け方まで続きました

旦那様と旦那様
のことが大好きです

そうだなあエッチして汗もかいたし
何か飲み物がほしいところだよ

では搾りたての新鮮な
ミルクはいかがですか？

もしも彼女が妊婦になっても変わらず

ラブラブな生活を続けていたら…♡



ん…う？どうした？

じーっと見て…

いや…もうすぐ
慧音先生が僕だけの
ものじゃなくなるんだなあつて

お腹の子に
ヤキモチやいちゃった
な!?

全く…仕方のない
パパだな

ば…パパ!?

違うのか？

いや…

そうだね…
慧音

こ…こ…こでは…

ちよつと…

慧音先生は 俺の嫁

作：森ぐる太



もうぐつたり
しちゃうの？

ははは
慧音つてば

おっ
おっ
おっ

も...もう
いいから...
はやく...膣内に...

うん
ドキドキ
ドキドキ
おっ
おっ
おっ

慧音…っ

おっぱい大きくなっただね♡

おっぱい♡

ダメだ…あつそんなことしたらすぐ…っ

おっぱい♡ おっぱい♡ おっぱい♡

おっぱい♡ おっぱい♡

元気な赤ちゃん産むからな♡

パパ♡

おっぱい♡ おっぱい♡

旦那様早く帰って
こないですかねえ♪

あ♡

コンコン

は♡い♡

おかえり
なさいませー
ア・ナ・タ♪

ニハッ

ドタ
ピン♡
文さんと
いつしよ

作：りんどろ

疲れたでしょう？
ほおらほおら〜

おっはい
しましよ〜

あなたの大好きな
文さんのボテ腹
パイズリですよ〜

グニ
ム
チュ
♡

プル
ン
♡

ほらほら〜
我慢しないで〜

好きなときに
びゅ〜っとするん
ですよ〜？

ズ
ツ
♡

レ
ロ
♡

ヌ
チ
♡

アハツ♪すっごい
射精♪んもう♪
これ以上に文さんを
孕ませる気ですか？

ふふ♪
可愛い射精顔♪

ドキ
ドキ
キュン
キュン
ドプドプ
ドプドプ
ビュウウウ!!
ビュウウ!!

あやや♪こんな
ところにエッチな
おねしょしちゃって♪

ブイッ
ブイッ

これからも
いっっぱい...

愛し合いましょ♪

ドロ...

おしまい



ええっ
もう一回？

はうっ……
いっぱう……

こっ……

んっ

こっ……

こっ……

レティの
見てたら……
ガマンが……

レティも
したいんじゃない

もっ……
仕方ないわね……

でもあんまり
激しくしちゃダメよ

レティさんと♡おつききなおなか

作…ラモトツ

れぶの

レティのナカ
ニエルニエルニエルで
きもちいいよ

かぶる

あゝ

ああっ
やっぱりっ
おっきいっ

あぶ

おっばい...
はってきてるね

あっ
ダメよ

おっばい...
でちゃ...んっ

あゝ
はあっ
でちゃってる

たぶ

おっばい絞られながら
優しく突かれるの
きもちいいっ

気持ち...いいっ

きもち

あ

かぶ

たぶ
あ
あ

地下に閉じ込められていた
悪魔の妹と恋に落ちて…

そっ…

ねえお兄さま！
お腹の子も
大きくなつたよ♡

ハラマセ
ワタツベリ

作：風居ユキ

一生幸せにすると誓い
結婚をしました。

ん？どうしたの？
お兄さま…お腹
触ってみる…？

フランね…今すっごく
幸せだよ…♡
もっともっとフランを
幸せにしてくれる…？

んっ…♡みるく絞り
上手っ…♡♡

フラン…？
おっぱい揉んだだけで
どろどろになってるよ？
そんなにおっぱいよかった？

うん…♡
このまま来て…♡

フランっ…♡好きだっ…♡
愛してる…っ！！
幸せになろうね…っ♡
俺の子供を産むんだよっ…♡

お兄様っ…♡ううん…♡
フランのっ…♡旦那様っ…♡
しゅきっ…♡愛してますっ…♡
あなたの子供っ…産むからあっ♡
ママになるからねっ…♡♡

聖白蓮との妊娠ラブライフ

文：きなこ 絵：CPU

妊娠してからも住職として命蓮寺でその務めを続けていますが、寺のみんなの計らいでいつも日が傾く前には帰宅させてくれる。

帰宅したあと、夕食の準備を済ませ、一息ついてしていると旦那さまが帰ってきた。

「おかえりなさい。今日も一日お疲れ様でした。」

一日頑張つて働いてきてくださった旦那さまに労いの言葉をかける。すると旦那さまは玄関で履物を脱ぎ私に駆け寄ってきて大きくなったお腹に手を添える。

「だいぶ大きくなったねと旦那さまが優しく私のお腹をさすってくれる。」

「もう7ヶ月目ですよ、順調に育ってるんですからね」

「ちなみにもう、お夕食の準備は出来てますよ。それとも先にお風呂になさいますか？」

旦那さまは腹ペコだと訴えてきたので早速夕食にすることに。

「あまりガツガツ食べるよとノドにつまっちゃいますよ」

そう言いつつも、私の手料理をおいしそうに食べてくださる旦那さまを見て嬉しくなる。

「あ、お風呂、沸いてますよ」

夕食も終わり一息ついたあとは、旦那さまがお風呂に向かった。それに気付いた私は洗いのを手早く済ませたあとすぐに浴室へ向かう。そして脱衣所にはいると着ていた服をすべて脱いで裸になり、浴室に入る。

「今日もお勤めありがとうございます…：がんばってください旦那さまのために今日もお背中お流しますね」

すると旦那さまが私の方を見て照れるように微笑んでくれた。

毎日の旦那さまのお勤めを労うため、旦那さまの身体を流してあげる。誰が言い出した訳でもなく結婚前から行っていた習慣だけど今でもこうやって止める事なく続いている。

毎日一緒にお風呂に入っているけど旦那さまに裸を見られるのはやっぱり恥ずかしい。妊娠7ヶ月になり母乳を出すためにさらに大きくなったおっぱいと、ぼっこりしたお腹で恥ずかしさも割り増しなのだけど、旦那さまはそんな私すら愛おしいと言ってください。腰掛けに座った大きな背中にお湯をかけ洗い流し、泡立たせたスポンジで全身をくまなくこすっていく。

「はい、じゃあ次は腋の下洗いますねえ、パンザイしてください」

最初は恥ずかしがってた旦那さまだけど、今では私の言う通りにして体を預けてくれる。「んっ…あんっ…」

妊娠しているのでもうしようもないのだけど、身体の前を洗う時は乳首やお腹が背中にあたってしまう。乳腺が張っている状態なので少し振れただけでも感じてしまう。

「んっ…痒いところはありますか？」

散髪屋のまね事をして誤魔化そうとしてみたものの、意味のないことだと瞬時に自覚してしまう。なぜなら旦那さまは私が敏感になっている事を知っているからだ。

そして裸でスキんシップをしていると、いつものように旦那さまに異変が見られる。

「おちんぼ勃起させちゃって…妊婦さん相手にこんな興奮するなんてイケナイ旦那さま」泡だつたスポンジをそつと股間に回し、おっぱいもぐにゅうつと押し当てる。

旦那さまはおちんぼをどさらに硬くさせながら抵抗するかのようにつぶやく。

「え？私の身体がすくいやらしい…から？」

どうやら私がおおきく張つたおっぱいとおおきなお腹に興奮してこうなったようだ。

「まさか妊婦の私に欲情するなんて…旦那さまの性欲は本当に底知れないですね」

ムクムクといきり立ったおちんぼをスポンジでギュつと包み優しくこすっていく。

スポンジの感触がこそばゆいのか、身をくねらせる旦那さま。それでも構わずシュツとこすり合わせていると観念したのか旦那さまがお願いをしてきた。

「手でしてほしいんですか？もう…仕方ない人ですね」

「じゃあ後ろからじゃちゃんと洗えませぬね、はい、前を向ってくださいね」

くるりと旦那さまを前を向け、泡だつた私の手では包み込めないほど大きなおちんぼを指先で優しく刺激する。最初はサオの部分、そしてだんだんとカリ首を。両手で優しく包み愛おしく上下に擦る。じゅぶじゅぶつとした泡だつた音をたてている。

「気持ちいい…ですか？ ふふっ…ビクビクしてですよ」

旦那さまの身体がビクッビクッと股間を起点にして震え出す。旦那さまの気持ちのいいポイント私は十分知り尽くしている。

旦那さまのおちんぼの灼けつくような体温が手から伝わってくるのを感じながら何度も丁寧に丸の裏からスジの方まで洗う。旦那さまの表情はもうお風呂ではなく完全に快楽に身を任せたオスの顔をしている。

「しゅっしゅっしゅっ…ぐちゅっぐちゅっぐちゅっ…」

更に硬さを増していくおちんぼからは石鹸の泡とは明らかに違う粘質の液体が分泌されてきた所で私はニコツと笑顔で旦那さまに次の段階へ進む事を告げる。

「もう…せつかく洗っているのにおちんぼからどんだんあおつゆがあふれてきますよ…ほら、手がこんなにネチヨネチヨになっちゃいましたよ」



ガチガチになったおちんぼから手を離すと亀頭から中指に一筋の糸が引く。これだけで十分達してしまいそうな旦那さまのおちんぼを唇に手を当てながら告げる。

「次はお口で、気持ち良くしてあげます…ね」

そう言って旦那さまを椅子に座らせる。私もお腹に負担にならないようにそっと屈み、おちんぼにそっと唇を伸ばしていく。

「んっ…あ…んむっ」

口いっぱいには開け舌を絡ませながら少しずつ頬張っていく。

「びちゃっ…じゅる…んぐふっ…」

舌先を絡ませ口の中に含んだ亀頭をレロレロと丹念に舐め回す。

「じゅるっ…大きい…このおちんぼで何度、愛してくださいましたのすよね…んぐっ…じゅる」

旦那さまを見上げながら私は口をすばませつつおちんぼを吸い上げる。

旦那さまは気持ちよさからピクンピクンと腰を震わせ、感じている事がわかる。

「ふふふっ…こうされるのが好きなんでふよねえ、ぜんぶん、わかってるんですからね」

裏筋をぺろぺろと舌先で舐めあげる。裏筋の真ん中あたりが旦那さまの弱点なのだ。

続けて亀頭、鈴口を唇で包みながら口の中で更に舌先で舐め回すと旦那さまから快楽を

我慢する声が聞こえてくる。

「ふふっ…我慢しなくても…あんむっ…んっ…いいんですよ…じゅるるるっ」

おちんぼに口づけをし亀頭から滲み出てきた粘液をすすりながら旦那さまに微笑みながら言葉をかける。旦那さまの射精が近い事は感覚でもうわかってきている。

「ふあっ…」

おちんぼから口を離すとニチャっと言音がし粘液の糸が唇とおちんぼをつたう。私の唾液

と混ざり合っぺトペトになったおちんぼを音を立てながら手でこすりたてる。

旦那さまのおちんぼが小刻みに震えだしてきた、いよいよ射精が近くなってきた。

すると旦那さまから珍しくお願いがあると提案してきた。口に出させて欲しいらしい。

「ふふっいいですよ…私のお口の中でいっぱい出して下さいね」

再び口を大きく開けて、ますます大きくなった旦那さまのおちんぼを思い切り頬張る。

「んぐっ…じゅっ…じゅっ…じゅっ…じゅっ…じゅるるるるるるっ」

根本まで啜え込み粘液を吸いながら喉奥まで旦那さまのおちんぼを受け入れる。

私の口の中が焼け付きそうな旦那さまのおちんぼでいっぱいになる。おちんぼでいっぱいになった口の中で蠢かせるように舌を這わせる。その度にピクンピクンとおちんぼが反



ズドゥム

ズドゥム

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

子種♡

あつい♡

旦那さま♡

「あつーあんーあつあつ…旦那さまあ…旦那さまあ…！」

旦那さまのおちんぼが私のおまんこを突く度に愛液がいやらしく泡立ち、おまんこがきゅんきゅんつと締め、おっぱいからは母乳がびゅるっびゅるつと飛び出してくる。溢れ出る母乳に旦那さまが再びむしゃぶりつく。

快楽に抗えず次第に子種を求めるように自分でも腰を動かしてしまおう。

「ぬちゅっしゅぶっしゅぶっ！」

おちんぼの先で赤ちゃんの部屋、子宮口を小突かれる度に息が荒くなり快感が昂っていく。

「あんっ…旦那さまの震えてる…射精そうなんです…んっ…いいですよっ…私の中にい…旦那さまの熱い子種をいっぱいびゅーっびゅーしてくださいいいっ…！」

旦那さまの腰の動きが徐々に早くなってくる。——射精が近い。

旦那さまが腰を引き、一瞬溜めた後に一気に私のおまんこを貫く。奥まで到達したおちんぼはおまんこの中で一瞬、震え——。

「どびゅっーびゅるるるるるるるるっ！」

「あつあつあつ…ひあつ…んっ…イクっ…イっちゃううううっ！」

絶頂と同時に旦那さまを抱きしめ、脚を旦那さまの腰に回しガツシリと固定する。

快感で足の指先がビーンと反る。

「出てるう…あつ…くううん…旦那さまの…熱い子種が私の中にたくさん出てるう…！」

旦那さまの射精はまだ止まらない。私のおまんこ中で何度もうねり、おまんこの中を熱い精子で満たしていく。ピクンピクンと肢体を震わせお腹の中が満たされていく暖かさを感じながら余韻に浸る。

「あふっ…お腹の中いっぱい広がって…すごい…気持ちいいです…旦那さまあ…！」

繋がったまま温もりを感じながらぎゅっつと抱きしめる。そしてもう一度キスをした。

「大好きです、旦那さま…！」

「でもこんなエッチな事するのは…旦那さまだけなんですから、ね！」

そのあと精液や愛液、それに母乳まみれになったお風呂をきれいにしてから、お風呂からあがって、そろそろ就寝時間。旦那さまと一緒にお布団に入ると、旦那さまは私のお腹をさすりながら私にやさしくしてくれる。

「ねえ旦那さまっ赤ちゃんの名前ってそろそろ考えてたりしてますか？」

私がそう言うと旦那さまは頷いた。

「えっもう3人目まで考えているんですか？もうせつかちさんですわ旦那さまは！」

「でも…うれしい…私もがんばりますからこれからいっぱい子作りしてくださいね」(終)